

2026 年 7 月 31 日作成 Ver.1.2

《情報公開文書》

全身性強皮症の抗原エピトープ探索研究

研究の概要

【背景】全身性強皮症は皮膚や臓器がかたくなる病気です。この病気は自己免疫疾患と呼ばれ、本来は体を守るはずの免疫が自分の体を攻撃してしまうことが原因と考えられています。診断には、血液中の自己抗体がつかわれますが、これらがどのように病気に関係しているのかは十分に分かりません。そのため、根本的な治療法はまだ確立されていません。自己免疫疾患では、抗体と抗原と呼ばれる物質が結合してできる免疫複合体が体の中にたまることで組織の障害が起こるとされています。この仕組みを明らかにできれば、新しい治療法の開発につながる可能性があります。我々のグループではこれまでに、全身性強皮症に特徴的な新しい自己抗原を見つけました。しかし、自己抗体が抗原のどの部分を認識しているのかはまだ分かりません。

【目的】本研究の目的は、患者さんの血液中にある免疫複合体の抗原について詳しく調べ、病気に関係する抗体の認識部位(エピトープ)を特定することです。

【意義】全身性強皮症の免疫複合体がどのようにして形成されるか明らかにすることができれば、病態を詳しく理解することができます。さらに、診断に有用な基準が得られたり、新しい治療法の開発につながったりする可能性があります。

【方法】患者さんの血液（血清）から免疫複合体を抽出し、架橋質量分析によって抗原-抗体の相互作用部位を調べることでエピトープ部分を調べます。

対象となる患者さん

「自己免疫疾患における免疫複合体研究」（長崎大学病院臨床研究倫理委員会許可番号 24101007）の研究の対象となった全身性強皮症の患者さん、健常者の方々。

研究に用いる情報

●研究に用いる情報

下記の情報を診療録より収集します。

性別、年齢、既往歴、薬剤歴、家族歴、症状、発病年月、合併症、治療情報（治療薬）、Stage、血算（白血球、赤血球、血小板/Plt、ヘモグロビン等）、血液像（白血球分画）、凝固系、AST、ALT、Bil（ビリルビン）、GTP、BUN、CK、Alb、TP（総タンパク）、GFR、Col、TG、Na、K、Cl、Ca、BS（血糖）、HCO₃⁻、アンモニア、ALP、IgG、IgM、IgA、IgE、CRP、C3、C4、CH50、自己抗体、糖鎖修飾情報、タンパク質同定・定量結果、エピトープ配列情報、三次元構造情報

本研究で利用する試料・情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。本研究で使用する試料・情報は、個人を特定できないように匿名化されており、特定の個人を識別することはできません。そのため、この研究に使われたくない

と申し出られた方を対象者から外することができません。あらかじめご了承ください。	
研究実施期間	
研究機関長の許可日～2030年3月31日	
研究実施体制	
研究責任者	所属：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 実践薬学分野 氏名：忽那 幸紀 住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1 電話：095（819）8569
情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長
問い合わせ先	
【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 実践薬学分野 忽那 幸紀 〒852-8501 長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号 電話：095（819）8569	
【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く） 苦情相談窓口：医療相談室 095（819）7200 受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）	